----------*11月2日*----------

※　今週のアウトルック(11/2～11/6)

先週は波乱に満ちた展開でした。
前半は円高傾向が強くなりつつあったのですが、木曜日に大きく引き戻され、金曜日には再び大きく円高となり終了しました。
ドル円は90円台前半まで円高が進み、その後91.5円あたりまで引き戻され、金曜日には90円ギリギリのところで終了しています。何とか90円台を保った様子ですが、反発の力強さはあまり感じられないようです。
NYダウの動きもそうなのですが、景気対策によるマクロ指標の改善、企業の来年3月の決算見通しの改善をどうとらえるかで、力関係が変わってきているようにも感じます。
つまり、改善データを上昇気流の裏付けと捉えるのか、織り込み済みと捉えるのかで見方がはっきり分かれているように思います。
全体の流れとしては、織り込み済みと捉える傾向が少し強いように思います。ドル円はここで一気に90円を割り込んでくると、87.5円割れを狙うような動きになるかもしれません。ただ、FOMCで出口戦略が示されづ、雇用統計が改善されるようなことがあれば90円からの反発という状況も考えられます。
予想レンジは87.5円から93円です。

ユーロ円はリスク回避の動きに合わせて弱くなっています。
140円を超えられなかったことで、再び130円割れを狙う展開に変わってしまったようにも感じます。リスク回避センチメントに変化がなければ、下降トレンドを形成する可能性が高くなりそうです。ただ、FOMCで出口戦略が示されず、追加の経済対策などが示されれば、一気に流れが変わる可能性はあるように思います。予想レンジは130円から137円です。

ポンド円は瀬戸際の状況かもしれません。
147.5円を簡単に割ってしまうようだと、再び140円割れを狙うような動きになるように思います。クロス円全般の動きからしてもその可能性は少し高いように思います。予想レンジは140円から150円です。

今週は水曜日のFOMC、木曜日のECB、金曜日の米国雇用統計とイベント目白押しです。場合によっては大きくリスク回避の流れに傾いてしまう可能性もあるように思いますので、十分注意が必要です。

＊免責事項＊
当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。